

平成29年度 富山県 第3回市町村職員等セミナー

グループワーク

在宅医療・介護連携推進事業の目標と取組み ーロジックモデルを使って考えるー

2017年11月14日

松本 佳子



東京大学 医学部 在宅医療学拠点

Center for Home Care Medicine, Faculty of Medicine, The University of Tokyo

グループワークの流れ

1. グループで地域の現状と課題について情報交換

- ・事前課題にもとに情報交換
- ・これまでの担当者としての手応えと悩みも加えて

2. 在宅医療・介護連携推進の地域版ロジックモデルをグループで作る

※それぞれ、各自付箋に書く（1枚に1つのこと）→模造紙に出す→グループ内で模造紙にまとめる

1) 「最終アウトカム」 = 目指すべき姿

- ・ 「自分が受けたい医療・介護」「住民になって欲しい姿」

2) 「中間アウトカム」

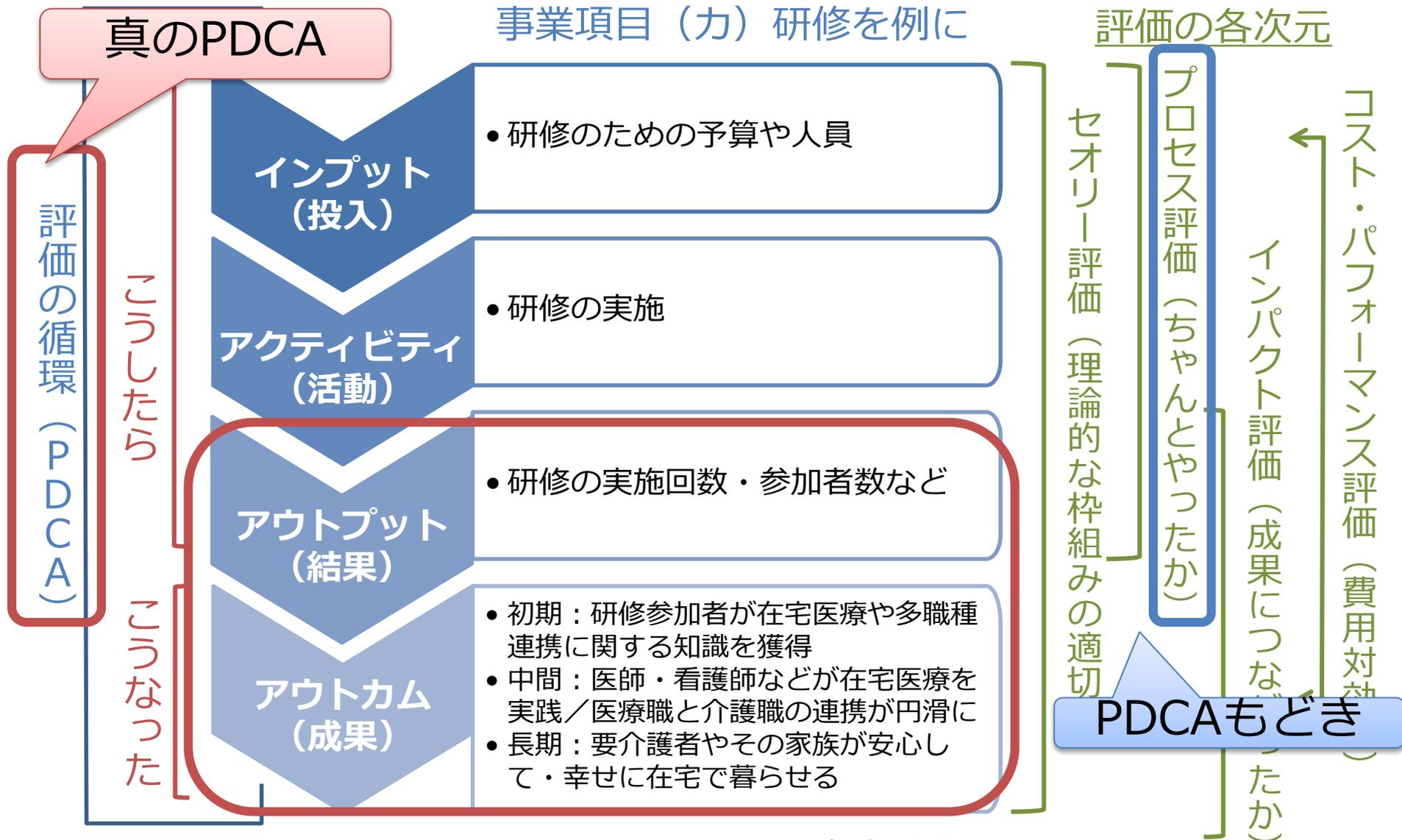
= 「最終アウトカム」を達成するために必要な状態

3) 「施策アウトプット」 = 達成するための取組み

4) 「最終アウトカム」「中間アウトカム」「施策アウトプット」が論理的につながっているか確認・吟味

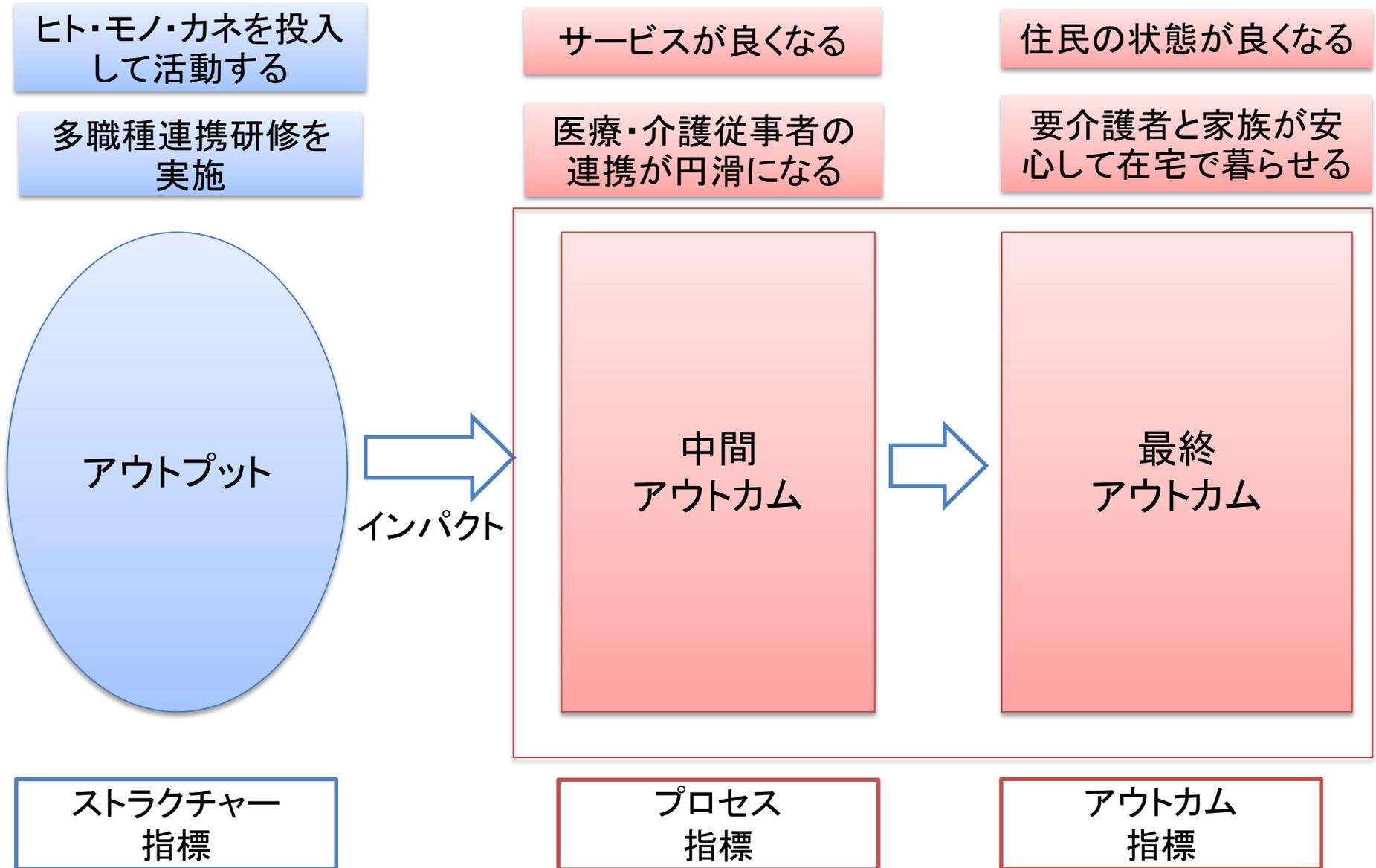
3. 発表

ロジックモデル（事業評価の基本枠組み）



図：W.K.Kellogg Foundation. Logic Model Development Guide, 2003. Rossi, et al. プログラム評価の理論と方法, 2005. 国際医療福祉大学教授埴岡健一氏講演資料をもとに演者作成

ロジックモデルで実際の事業を考える（再掲）



実際に事業を考える時のツリー

